

2024年7月12日

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校
校長 浅賀寿美

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ ビューティ専門学校 大宮校 学校関係者評価委員会は、2023年度（令和5年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

- 開催日時：2024年6月25日（火） 13：00 ～ 15：30
- 場所：ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校（オンライン）
- 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	（株式会社 sline 取締役） （日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長）
宮腰 大司	（有限会社HAIR GUEST 代表取締役）
杉原 昭二	（学校法人ミスパリ学園理事、評議員）
須賀谷 映子	（NPO法人スパ・ウェルネス協会 教育委員長） （学校法人ミスパリ学園評議員）
東 千晶	（ミス・パリ・グループ 人事部 部長）
越川 治枝	（ミス・パリ・グループ 教育部 部長）

事務局

浅賀 寿美	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 校長）
榎本 紋子	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 副校長）
荒木 弘子	（ミス・パリ・ビューティ専門学校大宮校 教育課 課長）

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

①学生アンケートにおける改善点

【現状】

大宮校では、在校生に対し、年に2回（前期・後期）授業アンケートを実施。アンケート分析によって、授業内容や教員指導等について学生の満足度を図り、これを基に課題の掘り起こし及び改善に務めている。

2023年度におけるアンケートの実施方法・分析結果は以下の通り。

〔実施方法〕 全在校生対象。無記名式。10項目3段階評価及び記述式のコメントを求める。

変更点：昨年度までの5段階評価から3段階評価へ変更し、記述式には学生自身の今期の振り返りと次期の目標を記すよう改めた。

〔実施時期〕 前期：2023年7月21日、後期：2024年3月8日

〔分析結果〕 年間を通して両学科とも、ほぼすべての項目で9割を超える満足度となった。このことから、本校の教育活動について、学生より一定の理解と満足が得られていると評価する。特に技術授業については、記述式コメントでも「技術の授業が楽しい」と声が多数挙がっている。他方、理論授業に関しては、技術授業に比して満足度が若干下がり、「授業が難しい」「勉強の仕方が分からない」等のコメントが複数みられた。このことから、学生の理解度に合わせた授業構築や工夫を各講師に求めたことで、後期アンケートでの満足度が上がり、さらに学生の全体的な成績が上がる結果となった。記述式アンケートでは、学生自身の振り返りを入れることで、学生の授業への取り組み方が分かり、参考になるとともに講師にとっても励みになった。

このように、アンケートから得られる学生の声を積極的に学校運営に取り入れることで、今後も学生がより良く学べる学習環境を作っていきたい。

②自己評価点の理由

【現状】

2023年度は、学生アンケートやISOの提言などを基に、様々な制度改革や体制強化を行ってきたことから、教育課程編成委員会では本校の教育の質が上がっているとの評価をいただいた。実際に進級率や資格試験取得率が向上しており、概ね良好な学校運営が出来ていると自己評価をしている。また、年度初めには全体職員会を開催し、外部講師や非常勤講師も含め、新年度の教育目標等の共有を図ったことで、教職員の一体感が増したことも評価点を上げる要因となった。今後も教職員が一丸となって更なる教育環境の整備に尽力していきたいと考えている。このことから今回の委員会では、本校の現状について学校関係者評価委員にご説明し、問題点を洗い出すとともに、改善アドバイス等をいただいた。

(1) 学生数確保について

唯一評価点を下げた項目として定員充足が挙げられる。2024年度の入学者数は、18歳人口減少の影響を受けた。2025年度18歳人口は回復基調のため募集活動に注力していく。このための施策として、2022年度より運営開始したTikTokのフォロー数が順調に伸びていることや、グーグルのロコミを見て来校する学生が増えたことから、電子媒体の選択や演出方法について見直し、広報に努める。特にトータルビューティ学科の主軸であるエステティックは、業態自体になじみのない高校生が多く、エステティックの魅力ややりがい等、高校生の興味を惹く発信をすることに注力していく。

(2) 学生・学修支援について

学生支援については様々な角度から支援が行えるよう、体制を整えている。トータルビューティ学科では練習日/勉強日を設け、学生が自主的に学びやすい環境を整えるとともに、技術上達票を作成し、到達目標と成果を記録するように工夫した。これにより、学生自身が上達を実感しやすくなったとの声が上がっている。就職先の企業の方からも技術力の高さに評価をいただいた。

美容学科では定期的な課題を与えることで、施術への苦手意識をなくすように努めた。また、インターンシップ制度の導入2年目となり、仕事へのやりがいや大変さを実感する良い機会に恵まれ、就職先としての縁も繋がっている。

設備面では、男子学生数が年々伸びているため、トイレや更衣室の整備などを行った。ただし、ジェンダー対応としては十分とは言えず、今後共同トイレや制服選択について検討が必要と考えている。

(3) 教育活動について

トータルビューティ学科のカリキュラムを社会のニーズに合わせて、最新の技術実習やビジネス実務授業を増やし、更なるプロフェッショナル人材の育成に注力できるよう刷新した。

学生ポータルを導入後、シラバスの公開や授業に関する質問を受け付けることができるよう学習補助に役立っているが、まだ使用頻度が低く十分に活用できていない。更なる細やかな指導のために、今後は学生ポータルの使用頻度を上げていきたい。

(4) 学修成果について

資格試験の結果では、実技試験合格率は98.2%に対して、筆記試験は80%と大きく差が出た。

「勉強の仕方が分からない」「高校ではテストがなかった」という学生もあり、座学に苦手意識が強い学生が多いことが要因を考えられる。対策として单元ごとに纏めプリントの配布や小テストを実施し、学生の理解度の把握に努めた。更に試験2週間前から段階的に課題を出し、学習の進め方を指導している。

③重点的に取り組む施策

学生アンケートや自己評価の結果から、2024年度の重点的な施策として次の3点を設定する。

1. エステティックの普及促進活動に力を入れる

エステティックはミスパリア学園の主軸をなす教育科目であり、学園創設にはエステティック産業の健全な普及を目指すという目的があった。この度、この原点に立ち返り、エステティックの普及活動に注力することによって、エステティックの魅力を広め、トータルビューティ学科の定員充足に繋げていきたい。更に延いては、エステティック産業の発展促進に寄与する存在となることを目指す。

2. 中退者の減少

入学した学校を中退してしまうことは、一部の例外を除き、学生本人はもちろん、保護者様と一緒に学んだクラスメイトも不幸にする行為であると考えられる。この要因の多くは、学生と学校並びに教職員との相互理解不足によるものである。学生アンケートから吸い上げた意見を参考に細やかにかつ早急に対応していくことで、中退者防止につなげていきたい。

3. 多様性への対応

個々人の理解度や価値観、生活環境の違いによる多様化をより重視し、理解することが必要。苦手と感じることに対して、自分に合っていないと思わせないように学びの面も人とのコミュニケーションの取り方も丁寧な対応が求められる。

委員より

- ・各データの推移は、自校の数字を比較するだけでなくグループ校や他の美容専学校の良いところとの比較をすることで、より対策を講じることができる。今後は他校とのデータを用いることを勧める。
- ・学生の思い描く理想と現実のギャップが早期の離職につながると考えられる。実際の現場を体験し、スタッフと交流することが入社後の壁をなくすことにつながるので、インターンシップを積極的に勧めてほしい。
- ・先生方の親身で学生に寄り添う指導は、学生指導として非常に評価できるが、社会人としては、上司に些細なことを解決してほしいと訴えてくる新人が散見されており、他力本願な若者が増えている傾向を危惧している。自身で考え、解決する力を養うことが本人の自信と強さに繋がるため、学生自身に解決させる指導を段階的に取り入れて欲しい。
- ・講師それぞれ学生アンケートを詳細に分析し、クラス編成や学生対応に当たる際に的確な人材を充てることに役立ててほしい。

5. 全体総括

今年度より学生アンケートの内容を改め、学生からの意見を吸い上げやすい内容になり、学生自身の頑張りも見えるようになった。毎年続けているからこそ、より活用することのできるデータのとり方を今後も検討していきたい。学生は年々多様化しており、興味を持つ対象や苦手と感ずること、コミュニティの築き方なども人それぞれになっている。SNSで常時他人とつながり、オンとオフの切り替えのしにくい環境に置かれて心が疲れやすくなっている現代の学生を、目標をもって活躍できる人材に育てていきたい。美容業界を牽引していく美のプロフェッショナルの育成により一層尽力していきたい。

以上